

「第 14 回日中情報サービス産業懇談会」参加報告

2010.10.8

藤野

9月13日～9月16日の日程で、JISA／CSIA（中国ソフトウェア産業協会）の情報交換会に出席し、UMTPの活動（以下）と、「オフショア開発向けUML適用ガイドライン」の紹介、および活用事例紹介を実施してきましたのでご報告します。

- ① 2010年1月からは、CSIAと連携して、中国国内でUML技術者認定試験を開始。
- ② CSSPIAでは、中国でのUMLモデリングの人材育成を推進するため、China UMTP (UML Modeling Technology Professional) Center をCSSPIA内に設立。
- ③ 学生にUMLモデリングの重要性を認識させ、また学習の意欲を促すため、CSSPIAとUMTPは、2010 national students UML modeling contest をこの秋に開催。

日本の情報サービス関連のベンダーで作っている、JISA ((社)情報サービス産業協会)と中国の同様の組織であるCSIA（中国ソフトウェア産業協会）の第14回懇談会が中国陝西省西安市で開催された。

その会議において、以下のテーマにて講演を行った。

14:00-14:25 藤野 博之 UML モデリング推進協議会 理事
「日中間のオフショア開発におけるUML適用可能性について」

UML モデリング推進協議会の理事の立場で講演。

テーマが盛り沢山であった為、時間は25分のみ。現在は定着化しているオフショア開発の品質向上・効率化（原価低減）に役立つという事で、プログラム終了後の懇親会でも沢山の質問があり、関心の高さを感じた。

参加人数は、日本側：約50名、中国側約150名の合わせて200名強。

面白いのは、日本側のメンバーの内の5名が中国人で、中国側のメンバーの内の数名が日本人だった事。グローバル化の進展を感じた。

【発表／パネルディスカッションからの興味ある内容】

今までの、日中のソフトウェアの関係は、日本からのオフショアがメインだったが、今ではその構造に大きな変化が見られる。

興味ある討議内容は、以下の通り。

- ① 日本から優秀なS Eを呼んで中国側でソフトを開発するやり方もある。
短期的にはコスト増だが、長期的に見ると中国側の人も育ちメリットがある。
- ② 中国に進出した日本側のS I企業も、日本市場を相手にするだけではダメ。
中国の市場はグローバル。日本の商品をそのまま持ってきてはダメ。
今では、どう作るか（How to?）よりも何を作るか（What?）
- ③ 10回目までは、オフショア／アウトソーシングに話が集中していたが、
最近は、市場としての中国に話が向いている。
中国市場は、変化が激しい、日本企業は対応性／適合性が不足している。

【先進中国企業の見学（15日AM）から】

- BYD（比亚迪）：中国第一の乗用車メーカー、ハイブリッド車や電気自動車を製造。
(鈴木アルトの工場が倒産した後を買収。)
現在の第一・二工場で、年産70万台の生産能力あり。
第三工場を建設中で、トヨタをキャッチアップするのが目標。
<感想>：高い伸びを示す中国国内の需要を背景に、数年後には本当にトヨタに追いつく可能性を持つ。
特に電気自動車は、最高時速140km/h、300km/一回の充電、400万円弱。
この分野は、注目される。

- 法士特集团公司：世界最大の大型トラック向け変速機メーカー。
製造設備は、三菱等の日本製で自動化が進んでいる。
生産革新活動で6Sを中心において推進している。
- 6S : SEIRI SEITON SEISO SEIKETSU SHITSUKE SAFETY
 整理 整頓 清掃 清潔 賢 安全

<感想>：良い所は、日本式でも取り入れるという前向きな姿勢を感じた。
 困みに、「ジャパン アズ NO 1」といわれていた頃は、米国も日本企業を真剣に研究していた。
 今は、謙虚に日本は中国や欧米を研究する必要があると感じた。

以上